

「基本的教育と識字率向上月間」によせて

地区国際奉仕委員長
鈴木 宏司



「基本的教育と識字率向上」といいますと、まず貧困だとか、紛争や政情不安とか宗教的な理由で子供たちが教育を受けることができず、結果として識字率が上がらない途上国のことを思い浮かべます。

そういった国で教育を受けられるようにするにはまず学校が必要になります。学校があっても教える先生がいなければなりません。そして教えるためには教材も必要です。また子供たちが学校へ安心して通うことができ、衛生教育も受けられるようになるためには、安全な水も必要になります。またきれいなトイレや手洗い場も必要です。制服も必要になりますし、靴も持っていない子供たちもいます。考えれば考えるほど次々と問題点が出てきます。

2760地区でも基本的教育が受けられる環境整備に努めていますし、識字率向上のためのプロジェクトも東南アジアを中心に進められています。地区国際奉仕委員会ではここ数年タイ、カンボジア、ミャンマー、インドネシア、ラオス・ネパール・フィリピン、ベトナムにおいて基本的教育と識字率向上、水と衛生、母子の健康にかかわる事業を実施してきました。また地区内クラブにおきましてもたくさんの事業が実施されています。

こういった活動により、教育を受け識字率が上がることで、貧困から抜け出すことができます。女性の識字率が上がることで妊産婦の死亡率も下がり、生まれてくる子供たちの生存率も上がり当然平均寿命も長くなります。生産性も向上します。紛争や政情不安も減ります。そういった活動のために、グローバル補助金や地区補助金の有効活用は必要になってきています。

ロータリー活動を通して世界平和のために「基本的教育と識字率向上」活動を実施していただけることをお願いいたします。